

中ノ島嶋(カンチス)所屬國元件
帝子修國(部)

ト
家
目

第 3 号

四十二年六月三日

内務大臣 印

内務大臣 印

次官 印

参事官 印

地理課長 印

外務大臣 印

次官 印

政務局長 印

海軍大臣

次官

軍務局長

外務省

島嶼、名称及所管ヲ定ムル義ニ付
閣議提出来

嶋嶼發見、付所屬ヲ定メラシ度青東京府知事、上
申ニ依リ水路部、照會相成美処水路部ニテハ微証ス
ヤキ書類ナキヲ以テ名称面積形状ニ關シテハ取調、途ナキ
モ其位置ヨリ推定セバ發見由書ニ記載セバ如クガシマス
島ナリクテ而シテガシマス島ニ關シテハ舊國水路部出版
水路誌ニハ北緯三十四度四十七分東經百五十四度十
五分ニ存リトシ米國水路部出版北方平洋底圖報
告追補ニハガシマス島ナルモノハ存在セリト存、現今日

本件島嶼ハガシマス島ナリ
之ヲ確證ナリト認メ難
島ナリトスルモ尚其所
在ハ未ダアルヲ保シ難
慮之ヲ他國、島國
カニテ我島國ト

四十二年二月三日

海軍省

大臣 印

次官 印

参事官 印

地理課長 印

大臣 印

次官 印

政務局長 印

大臣

次官

軍務局長

外務省

島嶼、名称及所管ヲ定ムル義ニ付
閣議提出来

發見、付所屬ヲ定メ、度々東京府知事ノ上
依リ水路部、照會相成、英、処水路部ニテハ、徵証ス

類ナキヲ以テ、名称面積、形状ニ關シテハ、取調、途ナキ
置ヨリ、推定セバ、發見、由書ニ記載セリ、如ク、ガングス

ハ、而シテ、ガングス島ニ關シテハ、英國水路部、出版
誌ニ、北緯三十四度四十七分、東經百三十四度十

分、トシ、英國水路部、出版、北緯、中緯、危、報

補、ハ、ガングス島ナルモノハ、存在セリ、存、現今、日

本件島嶼ハ、ガングス島トシテ、如シト雖、未ダ十分
之ヲ確證ナリト認メ、難キノ、之ヲ、ガングス
島ナリトスルモ、尚其所屬ニ關シ、他國ヨリ、異議
ノ提出アルヲ、保シ、難シト思考ス、然レ、目下、
廣シク、他國、版圖ト認メ、キ、根據アルニテ、
カ、以テ、我國版圖ト認メ、本業ニ同意ス

本水師誌ニ北緯三十度四十七分東經百五十四度十
分ニガングス島アリ申是海面上ニ位置疑ハレノ符號ヲ置
クト雖其實有無未定ナリ如レト有之証ニ未得共既ニ
炭見者ニ於テ埔島并鑛田借用出願を証ニ未得者
此方面ニ島嶼ノ存在セルハ事實ナリト認メテ未而シ其
位置ニ依リ推考スルハ無論帝國ノ版圖ニ屬スベキ
モノト思惟致ス依テ此際島名ヲ定メ東京府小笠原
原島々廳所屬島嶼ニ編入ノ義左按圖議提出
相成可然式相付来

閣議案

無人島名稱並所屬ニ關スル件

東京府小笠原島嶼ニ關スル件
ナレ者北緯二
十度五十分東經百五十四度二分即テ東京府小笠原島ノ

外務省

距ル五百六十哩ノ位置ニ於テ島嶼ヲ炭見シ海圖ノカ
ンダスアイランドニ相當スル旨由出タルニ依リ行政上ノ所屬
ヲ定メラレシコトヲ東京府知事ヨリ上申サリ然ルニ水路部
ニ於ケル日本水師誌ニ北緯三十度四十七分東經百五十四
度一五十分ニガングス島アリ位置疑ハレトノ符號ヲ置テ証
ニテ其位置ニハ多少ノ差異アルニ依リ他日確定スルノ必要
アルヤキモ帝國ノ版圖ニ屬スベキハ論ナキヲ以テ自今該
島ヲ中島島ト名ケ東京府小笠原島嶼ノ所屬管
ト爲サントス云請閣議

内務大臣

内閣總理大臣

右閣議決定相成奏上ハ左案東京府ノ訓令相

成可然

案

訓
號

北緯三十度五十分東經百五十四度二分ニ在ル島嶼ヲ
中ノ島ト名ケ自今其府小笠原島廳ノ所管ト
ス此旨管内ニ告示ス
加訓令

年月日

大臣

外務省

島嶼意見件

東京市小石川区諏訪町山田禎三郎ヨリ島嶼意見ノ旨由書面ヲ以テ東京府知事ヨリ上申ノ次第モ有之其處方ハ其位置ヨリ推考スルハ當該帝國ノ版図ニ属スルモノトハ存スル共未タ行政上ノ所屬定ラサルモノニ付同島ノ名称所在地面積及形状等

外務省

ニ關シ貴部ニ於テ市調査相成否ハハ詳細知致度ニ付回報相成否ハ既由所依頼スル也

年月日

地方局長

水陸部長

近テ別紙島嶼意見書ハ市回答ノ際以て呈相成否ハハ所望也

島嶼炭見之義上申

島嶼炭見ノ義山田頑三郎ヨリ別當寫之通
届出タル敷ヲ以テ小笠原島々司ヨリ上申有之矣
慶奉島ハ其位置ヲ見テ本邦ノ所屬タル勿
論之義ト存テ得共未ダ行政上ノ所屬定ムサル
モノニ有之ヲ付何公卿議可相成モノト思料
致事余ハ所放此段及上申有也

明治四十年五月四日

東京府公事 河部 浩

内務大臣原敬殿

外務省

小笠原島所属島嶼叢見由

地有儀明治四十年八月中北緯三十度五方東經
百五十四度八分、所ニ於テ一島嶼ヲ探検シ其面積
地質等左記諸項、如クニテ當然小笠原島所属
ニ屬スハキモナルヲ釐見致ス向概然島面水深廿
段由庫申上ヨリ也

一、該島ハ小笠原島ヲ距ル五百六十哩ニテ全島周圍一里
廿五町ナリ、

二、島内全面積ニ千四百三十七坪

三、地積八分通リ追焼燐堆積ニ其厚サハ平均二尺
位ニシテ之ニ含有セル燐酸石灰ハ二十パーセント乃至二十五
パーセントナリ、

四、樹木ハ引ノ樹一坪平均一本位アリ稀ニカヤ樹ヲ

見ル飲用水、自然ニ湧出スルモノナシ、

五、鳥類ハ馬鹿島(白鳥)一見數百羽ヲ算ス

六、該島ハ海國ニ於テカンジスアイランド(Cangas)ニ相當
スト思惟ス

七、探検、上別紙圖面、如ク島内ヲ三台ニ仮ニハ字ヲ日向

平真島山及西向平ト命名セリ、

船中場所ハ西向平ニシテ之ヲ西港ト仮稱セリ、

右

明治四十年四月二十八日

東京市小笠原島探検隊 山田彼三郎

發見者

山田彼三郎

東京府小笠原島司何利孝太郎 敘

明治四十年五月二十一日

水路部長坂本一

内務省地方局長床次次郎殿

回答

本月十三日内務省東甲第ニ五九號ヲ以テ御依
頼ノ件ヲ承テ慶見ノ島ニ就キテハ當部ニ於テモ
何等ノ微知ヲ有シ書案無之從テ其名稱面積形
狀ニ関シテ取調ノ途多ク之ヲ共ニ其位置ヲ推究
セバ數見御書ニ記載スル如クガンダス島ナラント彼存
在尚ハガンダス島ニ關シテハ別紙ノ通り、記事有之而
已ニテ同御書照直相添申上

近テ島嶼數見島及互不床矣

外務省

大田孝乃

(別紙四葉添附)

(印)

（一）千九百年、英國水路部出版太平洋諸島
水路誌第一卷四一頁、掲記せる歌謡

ガングス島及礁

海図上ガングス島ハ北緯三十四度四十分東經一五四度一
五分、ガングス礁ハ北緯三十四度五十分東經一五四度一
五分、此等諸島、一箇若しくは多数、危嶮アリト屢報
告セラルト云其位置、就キテハ一ニ確實ナルモノナシ、
此附近ニ或危嶮礁ノ存在スルコトハ事實ナリトノ報
至リ、從ツテ其存否ヲ確定スルコトニ要ナリ、

（二）千八百八十年、英國水路部出版太平洋危
險報告追補一七頁ニ掲記せる歌謡

太平洋諸島、船長ハ屢々此附近ヲ航行セシムル北緯
三十四度五十分東經一五四度二十分ニ於ケル礁（或ハ北緯

外務省

三十四度三十分東經一百三十四度八十分ニ在リト云）及北緯
三十四度東經一百三十四度ニ於ケルガングス島ハ存在セザル
コトヲ報告セリ、

然レモ此地方ハ他日、探測ヲ要ス、

（三）明治三十一年、當部編輯小笠原群島ハ出
張、際、日向島ニ於テ聴取セシ實業

量、玉置半島ニ於テ一島ヲ發見用拓シ巨量、
財ヲ蓄フルニ至リタルヲ以テ同島、有志者當此海圖上ニ
記載セラルタルガングス島（位置疑ハシト附記ナリ）ヲ探検
セント之ヲ搜索ニ從事セシモ發見スルコト能ハザリト如上
ノ事實ヲ綜合シ現今日本水路誌第一卷第三四頁
ニ左記、如ク掲記ナリ、

ガングス島及礁（Ganges Island Reef）

